

2019年7月24日 全3頁

ジョンソン新首相誕生へ

英国版トランプ大統領の誕生か？

ユーロウェイブ@欧州経済・金融市場 Vol. 139

ロンドンリサーチセンター
シニアエコノミスト
菅野泰夫

[要約]

- 2019年7月23日、7週間にわたり繰り広げられた英国の保守党党首選の結果発表が行われ、ボリス・ジョンソン元外相（以下、ジョンソン新党首）が92,153票（得票率66.4%）で、対立候補のジェレミー・ハント外相の46,656票（同33.6%）の2倍近い票を獲得し勝利した（投票率87.4%）。この結果、7月24日にジョンソン新党首が女王に謁見し、新政権樹立の許諾を得て新首相に就任する。
- ジョンソン新党首は、イートン校を経て、オックスフォード大学を卒業したエスタブリッシュメントであり、英国の政治家には珍しく多言語を操る（フランス語、イタリア語も堪能）国際派として知られる。オックスフォード大学では古典を専攻し、これまでに数々の首相を出したオックスフォード大学雄弁会の会長を務めた。ぼさぼさの金髪がトレードマークであり、エリートらしからぬたまたまいに加え、豪快かつ温かみあふれるユーモアで知られるキャラクターは、保守党党员をはじめ庶民にも抜群の人気がある。
- 今後のジョンソン新党首に対して注目されているのは、議会を閉会してまでも合意なき離脱に踏み切るか否かであろう。ジョンソン新党首は、党首選中に合意なき離脱は100万分の1の確率でしか起こらないと豪語していたが、この言葉を信じるものは少ない。人気者のジョンソン首相が誕生しても、最終的なEUとの交渉に希望が持てないまま、合意なき離脱の可能性だけが高まりつつある。

ジョンソン新首相誕生へ

2019年7月23日、7週間にわたり繰り広げられた英国の保守党党首選の結果発表が行われ、ボリス・ジョンソン元外相（以下、ジョンソン新党首）が92,153票（得票率66.4%）で、対立候補のジェレミー・ハント外相の46,656票（同33.6%）の2倍近い票を獲得し勝利した（投票率87.4%）。この結果、7月24日にジョンソン新党首が女王に謁見し、新政権樹立の許諾を得て新首相に就任する。ジョンソン新党首は、勝利演説で、「10月31日にブレグジットを実現し、自分自身を再び信じ、眠りから覚めた巨人のように立ち上がり、自己不信やネガティブ性にとらわれないようにしましょう」と呼びかけた。

党首選でジョンソン新党首はハンコック保健相やリースモグ議員など、党内の残留派・離脱派双方からの支持を得たことで、筆頭候補の座から一度も落ちることなく、順調に勝ち上がった。ハント外相が、離脱合意形成が視野に入っているのであれば、10月31日の離脱期限を延長する構えがあるとした一方、ジョンソン新党首は、合意の有無に限らず離脱期限の遵守を強調し、閣僚入りするにはこのアプローチを受け入れることが条件という強硬なスタンスをとったことが勝因とされる。

ただ合意なき離脱を辞さないジョンソン新党首に対し、主要閣僚の反発は大きい。すぐに組閣が予定されており、7月24日の夜には新主要閣僚が明らかになるにもかかわらず、（象徴的な意味合いで）ダンカン外務次官、ハモンド財務相、ゴーク司法相、スチュワート国際開発相ら閣僚の辞任（あるいは辞意表明）が相次いでいるのが現状だ。

合意なき離脱の受け入れがジョンソン政権への入閣条件とされているため、当初、残留派を表明していた保守党議員の誰がどのポストに就くのか注目される。首相に次ぐナンバー2のポストである財務相には残留派から離脱派に転じたジャビド内務相が有力視され、合意なき離脱に伴う財政拡大も受け入れるものとみられている。一方、親欧州派では（直前に合意なき離脱の受け入れを発表した）ラッド雇用・年金相以外は、入閣はないものとみられている。

ジョンソン新党首の特徴・キャラクター、本当に合意なき離脱へ突き進むのか？

ジョンソン新党首は、イートン校を経て、オックスフォード大学を卒業したエスタブリッシュメント（支配階級）であり、英国の政治家には珍しく多言語を操る（フランス語、イタリア語も堪能）国際派として知られる。オックスフォード大学では古典を専攻し、これまでに数々の首相を出したオックスフォード大学雄弁会の会長を務めた。ぼさぼさの金髪がトレードマークであり、エリートらしからぬたずまいに加え、豪快かつ温かみあふれるユーモアで知られるキャラクターは、保守党党员をはじめ庶民にも抜群の人気がある。ただ首相就任という目標達成に向け、政治信条を曲げることをいとわない野心家という側面がある。非常に優秀でありながらも、勤勉さに向け、詳細な事実把握、綿密な計画ができないことも度々指摘されている。英国版トランプ大統領との評価も多いが、政治家としてのキャリアは長く、政治経験ゼロのト

ランプ大統領とは大きく異なる。ジョンソン新党首はジャーナリストとして活動後、保守党擁立候補となり 2001 年の総選挙より政界入りする。その後、議員を辞して 2008 年 5 月のロンドン市長選に出馬し当選、2 期目となる 2012 年にも再選された。ところが任期中の 2015 年総選挙に際し、ロンドン市長を辞任し、国政に復帰した。

党首選にあたり、ジョンソン新党首は新たな離脱合意を EU から取り付けるか、10 月 31 日に合意なき離脱をすることを公約している。ただし、議会はメイ元首相の離脱合意案を否決し、合意なき離脱の不支持を表明し、EU は離脱協定の再交渉を拒否している。常識的に考えれば、公約実施はほぼ不可能と思われるが、ジョンソン新党首陣営が何かしらの奇策をとるのではないかと懸念も消えてはいない。

その奇策の一つとされるのが、議会閉会后、開会まで最大 2 週間休会する慣習を利用して、合意なき離脱を実現することである。新首相が、10 月中旬以降に現在の会期を終了させ、女王の施政方針演説を 11 月に予定すると、(最大 2 週間の休会のため)10 月 31 日の離脱期限周辺は、閉会となる。閉会となれば議員は身動きがとれず、政府がその間に合意なき離脱を強行することができる。今後のジョンソン新党首に対して注目されているのは、議会を閉会してまでも合意なき離脱に踏み切るか否かであろう。

一方、合意なき離脱に反対する残留派の保守党議員は既に様々な措置をとろうと動員をかけている。7 月 18 日には、47 名もの保守党造反議員が出て、(合意なき離脱強行に向けた)休会を阻止するための法律(北アイルランド法に対する修正案)を可決したばかりである。ただし、実際に休会を阻止できるかどうかについては識者でも意見が分かれている。また、議会の過半数が合意なき離脱に反対したとしても、実際に合意なき離脱を阻止する法的なメカニズムが存在するかどうかははっきりしていない¹。(7 月 25 日から 9 月 3 日までの)夏季休会以降、10 月 31 日までの実質 2 ヶ月弱しかない中で、EU との交渉はほぼ不可能ともいわれている。ジョンソン新党首は、党首選中に合意なき離脱は 100 万分の 1 の確率でしか起こらないと豪語していたが、この言葉を信じるものは少ない。人気者のジョンソン首相が誕生しても、最終的な EU との交渉に希望が持てないまま、合意なき離脱の可能性だけが高まりつつある。

(了)

¹ 休会中でも、(自治政府が機能していない)北アイルランドの状況について、議会で審議するという内容の修正案。議会が閉ざされていても、審議するために議員が集まることができる(集まってしまえば、政府の動きに反対することができるというロジック)。ただ実際に集まって審議した内容を法案として可決できるか否かは識者でも意見が分かれているため、結局、結論が出ずに 10 月 31 日に法的デフォルト(=合意なき離脱)を迎える可能性が高い。